

「第 21 回日本感性工学会春季大会」に参加しました

令和8年3月16日、宇都宮大学で開催された「第21回日本感性工学会春季大会」に1, 2年生各1グループ（4名ずつ）参加し、ポスター発表をしました。発表後は8人全員が「研究奨励賞」をいただきました。



発表テーマ

< 2年生 >

Feel free to にんにく

～気楽ににんにくを食べるには～

< 1年生 >

軟水・硬水と食べ物の関係性は？

～食べ物における硬水のメリットを探す～

有識者の質問にもお互いにフォローをしながら回答していました。

参加者振り返り

自分たちの発表では、学校内では出てこないような新しい視点の質問をいただくことができ、非常に興味深かったです。また、他の人の発表を聞いて、普段気にも留めないような「当たり前の日常」から着想を得て、それを科学的な実験に落とし込み結果を導き出している点が大変面白く、勉強になりました。今回学んだ「日常に潜む疑問を見逃さない視点」を、来年の探究活動のテーマ設定にもぜひ活かしていきたいです。

私たちの研究ではカフェイン(主にコーヒー)がニンニクによる口臭を軽減する効果があるという事が分かったが、それがどのくらい減少しているのか分かり易いような例(消臭作用が認められているブレスケアがどのくらい数値を減少させるのかなど)を出しながら説明するべきだと学んだ。

学会という専門的な場で発表することに始めは緊張もあったが、多くの方に探究内容に興味を持って聞いていただけで、緊張もほぐれて最大限の発表をすることができた。発表後の質疑はとても具体的なもので、自分たちの言葉で説明することはとてもいい経験になったし、自信にもつながった。アドバイスの部分では実験条件や評価方法に関する指摘もあり、研究結果の解釈にはより多様な視点が必要であることを実感した。また、自分たちでは十分に煮詰めることができていなかった内容についても気づかされ、探究を深める上で非常に有意義な機会となったと思う。今日学んだ経験を来年からの探究につなげていき、よりよい発表をできるように取り組んでいきたい。

今回のように大人に対して発表したことで生徒たちとは違った観点からの質問があり、戸惑うこともあったが最後までやりきれた。自分が次に活かせると思ったことは、客観性のある数値による結果だけではなく主観的な結果も入れているということだ。もちろん主観的な結果だけでは不十分だが、客観的な結果に補足するような形で入れることで、結果の信頼性が高まるとわかった。実際ニンニクの匂いを消す目的は、人に臭いと思われたいことなので、人が嗅いだときの評価も十分な試料になると思う。

学校で発表しているときは「なぜ科学的に聞くのか」を問われることはなかったが、アサヒ飲料やライオンの方が発表を見る中でなぜこうなるのかを質問されることが多かった。今回の目的はそこまで踏み込まなくても結論を出せるものだったけれど、これからこの実験を応用するとき科学的なアプローチが必要になると感じた。自分たちの実験をより説得力のある、また更に一歩進んだものにするためにこれからはこのようなことに気を付けようと思った。高校生で今回のような場に出ることができたのはとても良い経験になったため、今回得た学びを忘れずにこれから探究をしていきたい。

探究をするにあたってまず背景や目的がないといけませんが、そこを曖昧に研究を始めてしまったので、そもそも何を解決する研究なのか、目的に対し解決につながる方法ができているかという点にズレが生じていることに気付かされた。やはり最初の時点で目的を曖昧にすると、ただ実験して終わりになってしまい、身の回りの解決につながらないと思った。探究は土台が大事だと実感した。

他校や企業は先行研究をもとにさらに発展させた探究を行っていて、実験を行ってから知ったことが多かった自分たちは参考にすべきだし改善する余地があると思った。探究の内容ももちろん大切だが、伝え方によって受け手の印象がかなり変わってくることを学んだ。

初めてこのような外部の発表に参加し、生徒や先生以外に発表を聞いてもらうことがなかったので少し緊張した。大学や企業の発表を見たが私たちの発表とは比べ物にならないくらい本格的で、プチプチの研究など面白いものがあった。私は将来やりたいことが全然決まっていなかったためとても参考になった。また、来年度の探究も味覚を使った実験をやる予定なので、実験する際に水を飲んで一回リセットしたりなどアドバイスをもらったのでそれも活かしていきたいと思いました。本当に勉強になったと思います。